

1 事業名 さんべミニ冬まつり

2 必要性

「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（中央教育審議会答申・平成 19 年 1 月 30 日）によると、「基本的な生活習慣の乱れ」「希薄な人間関係」「直接体験の少なさ」などが青少年の諸課題として取り上げられている。また、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（国立青少年教育振興機構・平成 22 年 10 月 14 日）によると、「小学校低学年までは友だちや動植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切」などの調査結果にあるとおり、子どもの頃の自然体験・集団宿泊体験など多岐にわたる体験の実施や家族との関わりの必要性について述べられている。

これらを踏まえ、当施設では国立の青少年教育施設として、青少年育成に携わる団体や人材と連携し、青少年の健やかな成長にとって、様々な体験活動を実施することがいかに重要であるかを広く社会や家庭に広めていかなければならない。さらに、そのきっかけ作りとなるような体験活動の機会を提供することも今後より一層求められる。

3 趣旨

当施設の活動プログラムを提供することを通して、体験活動の楽しさを啓発し、今後の施設利用の促進や体験活動実施の普及を図る。また、家族の絆を深めることや基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

4 期日

平成 24 年 2 月 18 日（土）～2 月 19 日（日）（1 泊 2 日）

5 参加者

(1) 募集対象・人数 幼児、小学生とその保護者 150 名

(2) 参加人数 182 名 60 家族

(3) 参加者分析 150 名の募集に対して、定員を大幅に超える 182 名の参加があった。参加者の参加地域の内訳は、下表のとおりである。参加者の本事業への参加のきっかけは、「チラシを見て」という回答が最も多かった。また、参加の 60 家族のうち 33 家族が新規の利用であった。



図 1 チラシ

参加地域	家族数
松江市	22
雲南市	2
出雲市	30
浜田市	2
邑智郡	1
広島市	2
三次市	1
計	60

表 1 参加者参加地域内訳

新規・継続	家族数
新規	33
継続	27
計	60

表 2 参加者施設利用実績

6 講師等

歩くスキー（3名）・・・狩野 祥文 氏 鈴垣 英晃 氏 宮脇 進 氏
自然観察（2名）・・・坂本 弘治 氏 柳楽 天児 氏

7 参加経費

大人 2,000 円 小学生 1,960 円 幼児 1,500 円 3 歳未満 200 円

※選択プログラムで三瓶自然館サヒメルでの天体観察会に参加する家族は別途料金（大人 240 円、小学生 80 円）が必要となる。

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、冬季における当施設の一大イベントの事業として位置づけている。家族を対象に冬の三瓶を満喫できるよう 3 つ以上の選択プログラムを設定した。プログラムは家族毎に選択できるようにし、その家族構成や子どもの年齢等の発達段階に応じた体験を提供できるようになっている。また、本事業では、当施設の法人ボランティアがプログラムを企画・運営するという大きな特色がある。初日の夜の選択活動及び 2 日目の午前中の活動について法人ボランティアが中心となり参加者にプログラムを提供した。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

今回のプログラム構成として、①冬の三瓶を満喫できるプログラム、②家族の絆を深めることのできるプログラム、③家族間の交流がもてるプログラム。④基本的な生活習慣を身に付けることのできるプログラムの 4 つをテーマとした。参加者が 182 名と多い中、より設定したテーマに即したプログラムを提供できるように、参加者自らが自分の実施したい活動を選択し、意欲的に活動に取り組めるようにした。

①冬の三瓶を満喫できるプログラムとして、「歩くスキー」、「スノーシュー&かんじきハイキング（自然観察）」、「雪像作り」の 3 つを設定した。この 3 つのプログラムでは、専門的知識や技術を有する講師に指導を依頼し、より本格的な体験を提供できるようにした。全てのプログラムにおいて活動を円滑に進めることができるように、その活動に適した人数毎のグループを設定し、必要に応じて法人ボランティアを配置した。

②家族の絆を深めることのできるプログラムとして、「ボランティア企画」、「天体観察」、「絵本の読み聞かせ」の 3 つを設定した。天体観察は、近隣施設である三瓶自然館サヒメルで実施した。また、ゆっくりと過ごしたいという家族は自主活動とし、施設内で自由に活動をしてもらった。

③家族間の交流がもてるプログラムとしてのテーマが達成できるよう、全てのプログラムにおいて複数の家族でグループを構成するように活動した。

④基本的な生活習慣を身に付けることのできるプログラムとしてのテーマが達成できるよう、参加者には当施設の標準生活時間に即して生活してもらい、食事や睡眠など基本的な生活習慣が身に付くきっかけになるように心がけた。

本事業の特色ともいえる法人ボランティアによるプログラム提供については、島根大学及び島根県立大学の学生が、事前に 2～3 回にわたり当施設まで足を運び、実際に当施設の様々なプログラム体験し、家族に楽しんでもらえるプログラムを企画した。施設でのプログラムの内容の検討の他に、各大学においても話し合いの機会を設け、当日の運営に備えた。

(3) 広報のポイント

広報については当事業のチラシ（図 1）を作成し、近隣（松江市・出雲市・浜田市・三次市・庄原市）小学校、幼稚園、保育園に 45,000 部配付した。今回は当施設が立地する大田市中心の広報ではなく、島根県内で比較的幼児数、児童数の多い松江市及び出雲市を中心に広報を行った。また、報道機関 34 社に対してもチラシを配布し、報道依頼をした。さらに、12 月及び 1 月に実施した、家族を対象とした教育事業の参加者に対してもチラシを配付し、参加を呼びかけた。

(4) 日程表

	12:45	14:00	17:00	19:00	21:00	23:00
2/18 (土)	集合	受付 開会式 オリエン テーション	選択活動 A. 歩くスキー B. スノーシュー&かんじき ハイキング C. 雪像づくり	つどい 夕食 入浴	選択活動 A. ボランティア企画 B. 天体観察 C. 絵本の読み聞かせ D. 自主活動	就寝

	6:30	9:30	12:00	13:00	13:30
2/19 (日)	起床 つどい 清掃 朝食	ボランティア企画	昼食	閉会式	解散

(5) 内容及び講師

① 選択プログラム「歩くスキー」

参加者の年齢などの発達段階によって 4 つのグループに分けて活動した。まず、全体で装備の選択方法や装着方法の説明を職員より指導した後、グループ毎につどいの広場で活動した。各グループに 1 名の講師及び 2~3 名の法人ボランティアを配置した。小学校高学年を中心とするグループについては林間コースでも活動をした。



② 選択プログラム「スノーシュー&かんじきハイキング」

参加者を人数が均等になるよう無作為に 3 つのグループに分けて活動した。まず、全体で装備の選択方法や装着方法の説明を職員より指導した後、グループ毎に活動した。各グループに 1 名の講師及び 2 名の法人ボランティアを配置した。コースは男三瓶山名号コースの中国自然歩道までの往復コースで、動植物の紹介や自然の滑り台などの雪遊びの活動をした。



③選択プログラム「雪像作り」

参加者を人数が均等になるよう無作為に7つのグループに分けて活動した。まず、全体で使用物品や手順の説明を職員より指導した後、グループ毎に活動した。各グループに1名の法人ボランティアを配置した。キャラクターのイラストやぬいぐるみを参考に思い思いの雪像を作った。



④選択プログラム「ボランティア企画」

参加者を人数が均等になるよう無作為に4つのチームに分けて「冬の運動会 in さんべ」をテーマとし、玉入れや綱引き、リレーに様々なアレンジを加えたレクリエーションゲームを行った。プログラムの運営は法人ボランティアが運営スタッフとグループリーダーに分かれて全てを担当した。



⑤選択プログラム「天体観察」

当施設から徒歩5分のところに立地する三瓶自然館サヒメルの天体観察会へ参加した。しかし、当日は降雪があったため、天体望遠鏡等を活用した天体観察ができなかった。そのため、プラネタリウムの鑑賞であった。

⑥選択プログラム「絵本の読み聞かせ」

職員による手遊びや絵本の読み聞かせを行った。手遊びは家族でふれあったり、友だちとふれあったりできる内容とし、絵本の読み聞かせは紙芝居や大型絵本、仕掛け絵本などを用いた。絵本の読み聞かせでは、3月に実施する体験の風リレーションシップ事業「宮西達也 子育て講演会&読み聞かせ」の広報も兼ね、宮西達也氏原作「おまえうまそうだな」などの絵本も取り扱った。



⑦ ボランティア企画

参加者全員を対象に「ウィンターネイチャーランド」をテーマとした法人ボランティアが考案したプログラムを実施した。全体で体ほぐし運動等をした後、雪合戦や雪そりなどの7つのブースを設定し、参加者が自由にブースを選択して回るように活動した。



(6) 運営のポイント

参加者が182名60家族と多く、また半数以上の参加者が当施設の利用が新規利用であったため、受付や移動、集合に時間を要したり、混雑したりすることが予想された。そのため、次のような工夫を行った。

- 受付の際の混雑を避けるために、参加費徴収場所と資料等配付場所を分割した。
- 参加者に活動時間を意識して行動してもらうために、タイムスケジュールをB1サイズの模造紙に拡大印刷し、所内各所に掲示した。
- 参加者が活動場所を把握できるように、所内各所に案内用の掲示物を掲示したり、法人ボランティアが案内したりした。
- 参加者の集合状況を把握するために、家族毎にマットを敷くなどし、集合隊形を事前に設定した。
- 自家用車で来所する参加者が多く、駐車場が混雑することが予想されたため、駐車場に職員を1名設置し、誘導した。

また、事業全体を通して参加者同士や参加者と法人ボランティアとの関わりを重視し、活動場面ではグループを設定し、コミュニケーションを図れるように配慮した。

さらに、本事業では補助スタッフとして25名の法人ボランティアに指導補助を依頼し、彼らにとっても学習の場となるよう企画の運営やプログラム実施時の補助を担ってもらった。法人ボランティアには参加者に対して活動場面における補助の他に、生活場面においても指導・助言をしてもらった。

(7) 安全管理のポイント

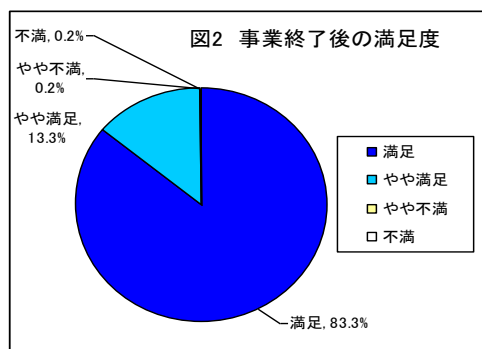
- 屋外で実施する活動については、事前に活動場所の踏査を実施し、安全確認を行った。
- 事業当日は大雪の天候であったため、宿泊棟や研修棟周辺の除雪や氷柱落としをした。
- 池周辺や軒下等の危険場所については、規制線を張り、立ち入りができないようにした。

- 参加者に対しては、集合毎に健康状態の確認を行った。
- 選択プログラム「天体観察」で三瓶自然館サヒメルに移動する際に道路が凍結していることが予想されたため、移動手段を徒歩に限定した。
- 事業当日は大雪の天候であったため、退所式において周辺の道路状況を説明した。

(8) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者 60 家族中）

満足	50 家族	(83.3%)
やや満足	8 家族	(13.3%)
やや不満	1 家族	(0.2%)
不満	1 家族	(0.2%)



- ・ 日程的にも無理がなく、小学校低学年の子ども連れでも楽しめる内容だった。
- ・ 子どものがんばっている姿が見ることができよかった。
- ・ 今回初めて参加したが、とても良い企画で親子共々楽しめてよかった。
- ・ 毎年楽しみにしている。今年も大変良い内容で楽しかった。
- ・ プログラムを選択できたので参加しやすかった。
- ・ 施設を初めて利用する人に対してもわかりやすく運営されていた。
- ・ 安全面にも配慮しつつ良い運営だった。
- ・ 職員の説明が詳しく丁寧で、好感がもて活動へ参加するモチベーションもあがった。
- ・ 少しでも困っていたら職員の方がすぐに優しく声をかけてくださった。
- ・ プログラムの変更などにもすばやく対応してくれた。
- ・ ボランティアと廊下ですれ違う際も元気よくあいさつをされ、気持ちよかった。ボランティア企画も工夫されていた。
- ・ ボランティアの日頃の研修の成果が十分に発揮できていたと思う。すばらしい運営だった。
- ・ ボランティアの企画は心がこもっていてとても楽しかった。子ども達と年齢の近い大学生とコミュニケーションをとることができてよかった。
- ・ 久しぶりに三瓶で過ごすことができリフレッシュできた。また、子どもの成長を感じることもできた。
- ・ 知人からの紹介でイベントを知ったが、さらにアピールをすればよりよい事業が展開できると思う。
- ・ 食事はおいしく、たくさん量を食えることができてよかった。
- ・ ボランティアの企画では進行等でやや足りない部分はあったが若いパワーをもらうことができた。
- ・ 昔と比べて規律などが大分ゆるくなっていた。個人的にはもう少し厳しくても良い。
- ・ ボランティアの企画が事前にわかっていたら、子ども達ももっとハラハラドキドキできていたと思う。

9 成果と今後の課題

<成果>

- 募集人数 150 名を 30 名以上上回る 182 名の参加があった。

- 今回参加の 60 家族のうち 33 家族が新規利用であった。
- 今回広報活動を松江市、出雲市を中心として実施した。その結果、参加の 60 家族のうち 52 家族が該当地域からの参加であった。
- 今年度は二日目のプログラムを選択プログラムとはせず、参加者全員に対して法人ボランティアによるプログラム提供とした。昨年度までのプログラムと大きく構成を変更しての実施となったが、参加者からのアンケートによると肯定的な意見を多くいただいた。また、法人ボランティアにとっても大勢の参加者を対象にプログラムの企画・運営ができたという点で有意義な学習の機会となった。
- 当施設の提供する冬季における魅力ある活動プログラムや講師の指導、法人ボランティアが実施した企画により、本事業は参加家族に貴重な体験を提供する機会となった。本事業の参加申込み状況は定員を大幅に超えるものであり、このような状況から、家族の自然環境における体験に対する興味・関心を高めることができたといえる。

<課題>

- 本事業は雪を活用したプログラムや野外で実施するプログラムが多く、天候に大きく左右される。荒天時や雪の無い時の代替プログラムについても基本プログラムと同等なものになるように配慮しておく必要がある。
- 今回事業実施日は降雪 30cm（累計 60cm）の大雪の天候であった。施設周辺及び活動場所の除雪や氷柱落としなど安全管理の面で十分に注意が必要である。
- 今回は幼稚園児・保育園児から小学生が主たる参加対象であったが、年齢の幅があるため、どの発達段階の子どもにも対応できるプログラムや発達段階別に体験できるプログラムを設定することが必要となる。

10 普及計画・普及実績

島根県内の新聞社・テレビ局等の報道機関に広報した結果、地方新聞 1 社が事業の概要を記事として掲載し、参加者の利用につながった。またホームページ上に要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く周知することができた。

また、参加者全員が集まる場で本事業の講師として指導いただいた研修指導員の活用方法を紹介し、研修支援事業での施設利用及び研修指導員活用についても促すことができた。

(担当 藤江 龍)